

## 生活期リハビリテーションにおける加入手法の標準コードの開発研究

研究代表者：三上 幸夫（広島大学病院・リハビリテーション科・教授）

研究要旨：本研究課題の目的は、介護保険の生活期リハビリテーションの介入手法に関する標準コードとその定義を開発し、その標準コードの具体的な評価と介入手法の手引きを作成することで、介護現場での介入手法の実態を解明することである。令和5年度には、（研究1）生活期リハビリテーションにおける訓練項目の実態調査と、（研究2）生活期リハビリテーションの訓練コードの標準化に向けたデルファイ調査を行った。（研究1）では、全国の生活期リハビリテーションを実施している医療機関と介護事業所45施設でアンケート調査による横断研究を行った。本実態調査から、生活期リハビリテーションの訓練項目は統一されていないことが明らかになった。また、（研究2）では、大項目と中項目で構成される生活期リハビリテーション手法に関する訓練コードを開発し、エキスパートパネルに対してデルファイ調査を行った。最終的に、大項目10項目と中項目56項目が「適切」かつ「合意」に至り、生活期リハビリテーションの介入手法に関する標準コードとその定義が完成した。令和6年度には、生活期リハビリテーションの介入手法に関する標準コードの具体的な評価と訓練内容の手引きを作成し、本標準コードのfeasibilityを検証する。

### 研究分担者：氏名・所属研究機関・役職

- ・安保雅博・東京慈恵医科大学医学部・教授
- ・三上靖夫・京都府立医科大学リハビリテーション医学教室・教授
- ・西村行秀・岩手医科大学医学部・教授
- ・大高洋平・藤田医科大学医学部・教授
- ・佐々木信幸・聖マリアンナ医科大学医学部・主任教授
- ・百崎良・三重大学医学部附属病院・教授
- ・新見昌央・日本大学医学部・教授
- ・河崎敬・京都府立医科大学リハビリテーション医学教室・講師
- ・羽田拓也・東京慈恵医科大学医学部・助教
- ・西山一成・岩手医科大学医学部・講師
- ・中山恭秀・東京慈恵医科大学医学部・准教授
- ・北村新・藤田医科大学保健衛生学部・助教
- ・清水美帆・三重大学医学部附属病院リハビリテーション部・技師長
- ・塩田繁人・広島大学病院・診療支援部リハビリテーション部門・主任作業療法士
- ・吉川浩平・広島大学病院・診療支援部リハビリテーション部門・主任言語聴覚士
- ・秋田智之・広島大学大学院医学系研究科・講師

### A. 研究目的

#### （研究1）生活期リハビリテーションにおける訓練項目の実態調査：

近年、生活期リハビリテーションでも科学的根拠に基づく手法が求められており、これを実践するためには、評価・介入方法・アウトカムの標準化が必要である。本研究1では、全国規模で医療保険と介護保険の生活期リハビリテーションにおける訓練項目名のアンケート調査を行い、訓練項目の実態を明らかにすることを目的とした。

#### （研究2）生活期リハビリテーションの訓練コードの標準化に向けたデルファイ調査：

研究1で実施した国内の生活期リハビリテーションを実施している医療機関と介護施設45施設を対象とした調査では、リハビリテーション訓練項目について統一した見解がないことを明らかとなった。本研究2では、生活期リハビリテーションの介入手法の標準コードおよびその定義を開発し、多職種で構成されたエキスパートパネルに対するDelphi調査によってその適切性を検証することを

目的とした。

## B. 研究方法

### (研究1)

研究デザイン：アンケート調査による横断研究

全国の生活期リハビリテーションを実施している医療機関、介護事業所 45 施設を対象とし、リハビリテーション処方箋とリハビリテーション指示書に記載されている訓練項目名をアンケート調査した。LIFE の介入項目に沿って調査した全ての訓練項目を再分類し、各介入項目名の記載件数と用語の差異を検討した。さらに医療保険と介護保険間および介護保険内での各訓練項目名の件数を比較検討した。

(倫理面への配慮)

本調査は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の対象ではなく、特別な倫理申請は必要なかった。

### (研究2)

研究デザイン：RAND/UCLA Delphi 法を用いた横断調査

リハビリテーションの訓練内容に卓越した知見を有するリハビリテーション科医師 6 名、理学療法士 3 名、作業療法士 3 名、言語聴覚士 3 名で構成されるエキスパートパネルを研究対象者とした。

研究班内に訓練コード作成 WG を設置し、訓練内容の用語を集約・検証した上で、大項目、中項目で構成される生活期リハビリテーションの介入手法に関する標準コードとその定義原案を作成した。訓練コード原案の適切性について、1 (適切でない) ~ 9 (適切である) の 9 段階で評価した。The RAND/UCLA Appropriateness Method User's Manual に基づき、中央値 7 以上を「適切」、中央値のある 3 分位以外の回答数 4 名以下を「合意」と判断した。すべてのコードが「適切」かつ「合意」となるまで、修正と調査を繰り返した。

(倫理面への配慮)

本調査は「人を対象とする生命科学・医学系研究

に関する倫理指針」の対象ではなく、特別な倫理申請は必要なかった。

## C. 研究結果

### (研究1)

対象施設 45 施設中、34 施設から回答を得た (回収率：75.6%)。LIFE の介入項目のうち、15 項目は該当がなく、記載件数が最大であったのは摂食嚥下訓練の 111 件であった。摂食嚥下訓練では 87 通りの訓練名が使用されていた。医療保険では摂食嚥下訓練の件数が多かったのに比べて、介護保険では歩行訓練の件数が多かった。また、介護保険内では、持久力訓練の記載件数は少なかった。LIFE の支援コードのうち、訓練項目が該当しかなかった項目は 15 件であった。

### (研究2)

エキスパートパネルに対して、計 3 回調査を実施した。

第 1 回目調査：15 名中 15 名から回答を得た (回収率：100%)。大項目、中項目ともにすべての訓練コードにおいて中央値が「7~9：適切」と判断された。大項目では「言語・聴覚機能訓練」、中項目では「起居訓練」、「立位訓練」、「見当識機能訓練」、「失行訓練」、「趣味訓練」、「言語訓練」の 6 項目が「不都合」であった。

第 2 回調査：15 名中 15 名から回答を得た (回収率：100%)。大項目、中項目ともにすべての訓練コードにおいて「適切」かつ「合意」に至ったが、重要なコメントを認めたため、文言の微調整を行った。

第 3 回調査：15 名中 15 名から回答を得た (回収率：100%)。大項目、中項目ともにすべての訓練コードにおいて「適切」かつ「合意」に至ったため、デルファイ調査を完了した。

## D. 考察

### (研究1)

本調査より、生活期リハビリテーションの訓練

項目は全国的に標準化されていないことが明らかとなった。LIFEの支援コード54項目中、15項目の訓練項目が該当せず、検討が必要と考えられた。

以上より、各種診療ガイドラインやテキストの用語を精査した上で、生活期リハビリテーションの介入手法の標準コードおよびその定義を開発することが必要であると考えられた。

## (研究2)

本研究では、大項目と中項目で構成されるの訓練コード案の適切性が検証された。最終的に大項目10項目と中項目56項目が「適切」かつ「合意」に至り、生活期リハビリテーションの介入手法に関する標準コードとその定義が完成した。

本研究で検証した訓練コード案は、臨床現場で一般的に利活用されている訓練内容を採用しており、生活期リハビリテーションの現場で用いやすいことが想定される。

今後は生活期リハビリテーションの介入手法に関する標準コードの具体的な評価と訓練内容の手引きを作成し、本標準コードのfeasibilityを検証することが求められる。

## E. 結論

生活期リハビリテーションにおける訓練項目の実態調査から、生活期リハビリテーションの訓練項目は統一されていないことが明らかになった。

エキスパートパネルに対するデルファイ調査により、訓練コード案の大項目10項目と中項目56項目が「適切」かつ「合意」に至り、生活期リハビリテーションの介入手法に関する標準コードとその定義が完成した。

## 文献

1) Shinohara H, Mikami Y, Kuroda R, Asaeda M, Kawasaki T, et al: Rehabilitation in the long-term care insurance domain: a scoping review. Health Econ Rev. 2022 Dec 1;12(1):59. doi: 10.1186/s13561-022-00407-6.

2) 厚生労働省:科学的介護情報システム(LIFE)による科学的介護の推進について. <https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/000949376.pdf> (2024-4-30 閲覧)

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

(国内学会発表:資料1)

荒木武弥, 塩田繁人, 吉川浩平, 三上幸夫:生活期リハビリテーションにおける訓練項目の全国調査. 第55回中国四国リハビリテーション医学研究会・第50回日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会. 2023年12月3日.

## H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし